

## 多くの人に参加した広域搜索訓練

奈良県勤労者山岳連盟（労山）主催の「2010年度広域搜索訓練」が9月5日吉野郡川上村の山岳で行われた。労山加盟の各団体・クラブから45名が参加、「台高山脈・馬の鞍岳に登った会員が遭難した」との想定で4班に分かれた「搜索隊」が谷筋、尾根筋で「搜索」活動を展開した。



キベリタテハ（8月常念岳）

しつこい暑さと湿度そしてヤマビルに悩まされたが、久々に登った台高山地の尾根は冷風が吹きぬけて爽やかだった。

花はマルミノヤマゴボウがややどぎつい感じの赤い花を総状に咲かせていた。またギンリョウソウも花を見せていたが、もう9月だからギンリョウソウモドキかもしれない。この両種、私などには見分けがつかない。

高齢でひざに故障をもつ私などは「枯れ木も山の賑わい」の類だが、こうした「訓練」など地道な努力の積み重ねこそが、安心・安全の登山を支えるのだろう、と思った。



クロトウヒレン（キク科トウヒレン属）（8月常念岳）

## 二上山だより

雌岳山頂のヤマハギが日増しに花を増やし、ツリガネニンジンやツルリンドウの花を揺する風も心もち涼しさを感じさせるようになった。

しかし昼間の気温の高さはどうだろう。登山路脇の水場は殆ど



ツリガネニンジン（葉は別）



クサアジサイ  
（ユキノシタ科クサアジサイ属）

が水枯れ状況、長く続く酷暑と少雨が人間の身体や暮らしにも小さからぬダメージを与えているが、野山の動植物の生理にはどんな影響をもたらすのだろうか。

クサアジサイがまだ咲き続けている一方で、キキョウなど秋の花も次々と咲いてはいるが、例年のように多くの秋の花を見る事が出来るだろうか。曼珠沙華は彼岸に花を見せてくれるだろうか。

クズ→  
マメ科クズ属



## 麻醉の名手 ジガバチ

何年か前、東吉野村の薊（あざみ）岳に仲間たちと登り、下山時に明神平という草原のあずまやで休憩した時のことです。女性の一人が「これ、何」と叫んでベンチの一点を指差しました。

見ると一匹のジガバチが自分の体と同じくらい大きい青虫をくわえているのです。そのジガバチはぐったりした青虫をくわえたままベンチから飛び降り、地面に着くと青虫を引きずって、小さな穴に入って行きました。穴は雨のかからない場所に事前に掘っておいたのでしょう。

そして、しばらくしてジガバチだけが出てきて、幾つかの小石で穴の入り口を塞いでしまいました。これが「ジガバチの青虫狩り」なのです。説明を聞きつつ一部始終を見ていた一同から賛嘆の言葉とため息がもれました。

ジガバチ（写真）は体長2センチあまり、山野でも、神社やお寺の境内などでも普通に見かける蜂で、地面をせわしなく動き回りますが、青虫を捕えてそれに産卵し、その青虫をやがて孵化する幼虫の餌にするのです。そして、その際青虫が逃げないように、又腐らないように、お尻の針で「毒」をうって眠らせておくのです。

そうです、ジガバチは麻醉の名手なのです。

昆虫やクモを狩るハチは他にも多く、古川晴男氏訳の「ファーブル昆虫記全6巻」にも「かりゅうどばちの観察」という1巻があるほどです。

しかし麻醉させた生餌（いきえ）を子に与えておくなど、進化の過程で身につけた能力でしょうが、不思議ですね。

### 《面白い名前の由来》

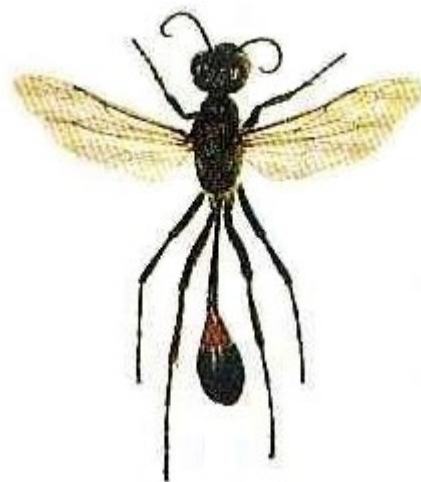
ちなみにジガバチの漢字は「似我蜂」。この蜂の羽音がジガジガと聞こえるそうです。穴の中に連れ込まれた青虫がやがて蜂になって出てくるのですから、この虫の生態を観察した昔の人は、親蜂が「私に似るのよ」「私に似るのよ」と呪文を唱えて魔法をかけ、青虫を蜂に変えてしまう とでも思ったのでしょうか。

それにしてもおもしろいネーミングですね。

**※9月18日のハイキング講座は午後2時から始めます。ハイキングクラブの会議は1時から行います。**（いずれも健生荘2階で）

### お詫びと訂正

125号の写真説明で「レイジンソウ」と書きましたが、左の写真の植物は「オオレイジンソウ」でした。お詫びして訂正します。以上



ジガバチ

(株) 保育社刊「昆虫」の図版より

